ISSN 2758-6847

「鹿児島の近現代」教育研究センター

近現代センター通信

創刊号　2023年3月

—目　次—

創刊の辞　1
センター紹介・スタッフ紹介　2
開所式　3
設立記念シンポジウム　4
令和４年度地域マネジメント
教育研究プロジェクト　5
離島の地域課題解決に関する研究プロジェクト：
沖永良部島を対象として　6
澤田ゼミの沖永良部での活動展開について　7
センター関連業績一覧　12
本の紹介　13
鹿児島の近現代文学（1）
一色次郎『左手の日記』　14
寄贈書・今後の予定・編集後記　15

創刊の辞

センター長　丹羽謙治

太宰治は『富嶽百景』の中に「富士には、月見草がよく似合う」という名文句を記しましたが、鹿児島には近代という時代がよく似合います。薩摩の地（島津家の領域）が近代の夜明けを演出した多くの人材を輩出したことからだけではなく、国内最後の内戦を繰り広げ、中央政府の推し進める近代西洋化政策に反対を唱えたことを含めて、南国の太陽の光が作りだす光と影の両面を併せ持っています。

現在から地続きの時代ということから、私たちは近代という時代をまだ正確に捉えることができていません。当たり前と思われていたものが当たり前ではなくなっていることや人間や社会の在り方が大きな転換期を迎えていることを我々は感じ取っています。それが何かということをはっきりとは認識できないまま、日々多忙な生活の中に埋没しています。

明治維新から１５０年余りが経過し、現在から１００年遡っても大正の末期、もう数年すると昭和１００年という時期を迎えています。我々は近代から「学ぶ」時期に来ていると思います。

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターは、令和４年１０月に大学の稲盛和夫基金によって設立されました。名前には「鹿児島」と「近現代」という二つのキーワードが入っています。近代、そして現代につながる様々な事象を対象にして、地域の歴史・文化・自然それぞれの資源を活かした研究・教育活動を行い、地域を元気にしていくことを目的としています。地域の資料を保存、整理してそれを多くの方々に使っていただけるようにすることから、観光開発や地域の課題解決、活性化への実際的な取り組みに至るまで幅広い活動を続けてまいります。

鹿児島の近代の実態を明らかにすべく研究を進めるとともに，後世に資料やその成果を伝え、現代の課題解決に向けて取り組んでいきますが、大学の中で完結することなく、学内外の研究者や自治体、企業、一般の方々とともに鹿児島の近代と現代の問題に取り組んでまいりたいと思います。

その活動が、ホームページやこのニューズレターを通じて、学内外の多くの方々へ届くことを祈念しております。